【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和5年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

学校名	佐賀市立昭栄中学校
1　前年度 評価結果の概要	・学力向上・・・生徒の主体的な学びを促すための授業改善やICT機器（電子黒板、学習用タブレットなど）の効果的な活用について研修などを用いて考えながら更なる学力向上を目指したい。 ・特別支援教育の推進・・・教室環境の整備や個に応じた支援などの内容について、研修等を用いて全職員で確認・検討し、取り組みを進める。 ・環境教育の推進・・・教職員の環境に対する高い意識や適切な行動が、生徒の行動にも反映されるよう、指導の充実を図る。学校版環境ISO実践校であることを再認識し、生徒会を中心に取り組み全教職員が一丸となって支援していく。 ・地域行事への参加・・・コロナ禍での地域行事の中止があったり、部活動の練習や大会などと重なったりして、地域行事に参加しにくいという現状があるが、参加の調整を工夫する。
2　学校教育目標	夢に向かって　たくましく　挑戦する生徒の育成　　～　自律　協働　～
3　本年度の重点目標	①確かな学力の定着 ②生徒指導の充実 ③特別支援教育の充実 ④開かれた信頼される学校づくり

4　重点取組内容・成果指標　　5　最終評価

(1)共通評価項目

重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価	
評価項目	取組内容	成果指標 （数値目標）		達成度（評価）	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	○全職員による共通理解と共通実践	○学力向上対策評価シートの成果指標を達成した教師を90%以上にする。	・教職員間で共通実践の達成に向け、講師を招聘した校内研修等により取組の促進を図る。	A	・学力向上対策評価シートの成果指標を90%以上が達成した。 ・年に3回の対話活動の授業を通して、生徒の質問力が向上し、土台作りができた。次年度は、学年ごとに系統性を持たせた実践を行いたい。	A	・学力、登校指導など全職員で協力して進めていると思われる。教職員間の連携が良好な結果によって、全体によい結果に繋がっていると思われる。
	○根拠をもとに説明する力の育成を目指した学習指導の工夫	○県学習状況調査において全教科で学力向上シートに設定した目標値を上回る。 ○「学校の授業などで、自分の考えを他の人に書いたり、話したりして説明できる」と肯定的に回答する生徒の割合を65%以上にする。	・「対話的な活動」を取り入れた授業づくりを全教科で実施し、授業改善を図る。 ・全教科で、根拠をもとに説明する場面を設定した単元づくりを行う。 ・相互授業参観を実施し、多角的な視点から授業改善を図る。	A	・各教科で対話的な活動を取り入れた授業実践を行った。 ・後期の結果、「自分の考えを他の人に書いたり、話したりして説明できる」という質問に、肯定的に答えた生徒の割合が、平均して約70%であった。	A	・ポートフォーリオの作成など工夫がなされ、対話的な活動が一方的な受け身の授業にならず、とてもよいと感じる。子どもたちの姿が自信に満ちているように感じる。
	○GIGAスクール構想を実現するための体制づくりと実践	○職員へのアンケートを実施し、結果を基に年3回の職員研修を行う。 ○週1回の情報教育部会を実施する。	・学習支援ツールの利活用に関する校内研修の実施 ・情報教育担当によるTeamsの使い方の研修 ・情報教育部会を行い、生徒端末や教師端末をトラブルなく使用できるようにする。	A	・年3回の情報教育に関する研修を実施することができた。 ・定期テスト一週間前の朝の時間で学習支援サービスを活用した学習ができた。 ・アンケート機能を使い、生徒会活動や各種の調査を効率よく行うことができた。 ・情報教育部会を定期的に実施し、職員や生徒の困り感を解消することができた。	A	・情報教育の重要性は年々増加しており、求められる資質も高くなっていると思う。情報教育部会の定期的な実施は、これからも期待している。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	●道徳に関するアンケートにおいて、肯定的な回答をした生徒を80%以上にする。	・ふれあい道徳を公開し、道徳教育の充実を図る。 ・いじめ・いのちを考える日や人権集会、研修会を実施する。	A	・ポートフォリオを活用し、学年の職員で、生徒の学びを把握することができた。 ・いじめ・いのちを考える日に、生徒会中心に宣言を唱和したり、標語づくりを通していじめについて考えさせることができた。 ・生徒への道徳に関するアンケートの結果が90%以上であった。	B	・人権・同和教育は命の教育であるため、柱として大事に扱いながら他の教育活動に繋げ、その意義を全体で共有して同じ思いで活動してほしい。更に、地域への思いやり、通学時の交通ルールの遵守などの他者への思いやりの気持ちも高めてほしい。
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	●「生活アンケート」を月１回実施する。 ●6月と10月に教育相談を実施する。 ●学校アンケートで、いじめに関する項目で「差別やいじめが無いよう心がけている」と応えた生徒を90%以上にする。	・いじめに関する実態調査を毎月行う。 ・きめ細かな実態把握に努め、いじめの未然防止、早期発見、早期対応を図る。 ・情報交換を密に行い、共通理解を図り、協力体制をつくる。 ・教職員への「いじめ防止対策基本方針」の周知を図る。また、SC・学習支援員・SSWとの連携を深める。	A	・毎月の生活アンケートを行い、様々な問題の早期発見、早期解決に努めることが出来た。 ・毎学期、生徒会が中心となって、全校生徒が「いじめ追放宣言」を復唱することで、生徒一人ひとりの意識向上を図ることができた。 ・毎週生徒指導部会を開き、各学年の問題や生徒の様子などについて、情報を共有し、問題の解決を行うことができた。	A	・定期的なアンケートなどでの状況把握と日頃の未然防止、早期発見、早期対応がうまく機能していると思われる。早期対応については管理職を中心に教職員でしっかり取り組まれており、このことが生徒・保護者の心の醸成に繋がっていると思われる。
	●◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●◎生徒にアンケートを実施し、自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちがあると答えた生徒を80%以上にする。 ●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒を80%以上にする。	・全ての教科等、学校行事等を通して、夢や目標を提示できる時間や場面を設ける。	A	・生徒が自信の夢を描き挑戦しようとする意欲を育てるための講演会や授業を実施することができた。 ・関連するアンケートで将来の夢や進路について考えている生徒が昨年より3%増え、さらに3年生では、6%増えた。	A	・　学校目標はもとより、校内の掲示物や講演会の開催など生徒が夢や目標を抱く機会を作られていると感じる。保護者アンケート結果からも1・2年生の数値は低く感じられるが、3年生の数値を鑑みれば十分に達成できていると思う。今後、地域の力をもっと使ったら更に高まると思う。
●健康・体つくり	●「運動習慣の改善や定着化」	●授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童生徒80%以上	・部活動で、体力や技能の向上を図り、心身共に健康な生徒を育成する。 ・体力テストの結果を個人で分析する時間を設定し、具体的な改善・目標を立てさせ実践させる。	A	・年間を通して、天候や生徒の体調等を考慮した活動日程や時間を設定し、運動に取り組める時間を確保した。 ・体力テストの結果を参考に、授業の中でも単元につなげた体力づくりを行うことができた。	A	・保健体育の授業における体力テスト結果を参考に改善や定着化を図っていることや部活動での活躍から十分達成できていると評価できる。また、学校での取り組みだけではなかなか改善出来ない部分もある中、満足できる対応をしていると思う。しかし、やってる子とやってない子の差が大きいと感じているため、さらなる取り組みを求める。
	○「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	○保健だよりを毎月発行し、食に関する情報発信を5回以上行う。 ○望ましい食習慣について、生徒会と協力し、集会等で情報を発信する。 ○朝食の喫食率を80%以上にする。	・養護教諭と給食担当で協力して、食の自己管理能力の育成に関する情報発信を行う。 ・生徒保健委員会と協力して、全校生徒に発表を行う。 ・生徒会担当と養護教諭と連携して取組の徹底を行う。	A	・毎月保健だよりを発行し、生徒や保護者に情報発信を行うことができた。 ・校内の掲示板に掲示することで、生徒への情報発信、注意喚起につながることができた。 ・生徒保健委員会と協力し、食に関するレポートを作成し、情報発信をすることができた。また、栄養教諭を招聘し朝食についての話も実施できた。 ・毎朝の喫食率は88%であった。	A	・保健便りの活用、生徒会活動との連携がうまくいっていると思われる。朝食の喫食率８９%はかなり高いと感じる。また、望ましい食習慣を正しく伝えることが出来ており成果が現れていると思う。今後、給食の時間の拡充を含め、更に食育にも力を入れて欲しいと思う。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・教職員一人ひとりが担当する業務について、効率化・費用対効果の視点から見直しを行う。 ・業務記録表を使って、業務改善をすすめ、月当たり80時間以上の超勤を0%にする。前年度比10%減、学校閉庁日の設定 ・部活動休養日の取得率を100%にする。	A	・月当たり時間外勤務が80時間を超える職員はいなかった。 ・休日の部活動について、3時間以上の実施が1学期は昨年比+65回だったが、時間の削減も強く呼びかけた結果、 2学期は昨年度より118回減らすことができた。	A	・月当たり時間外勤務８０時間超え勤務者０は評価できる。社会的にも時間外労働削減に対する理解が進んで来ていると思うので、より一層教職員の労働環境が良くなることに期待する。
	○セルフケア・ラインケア意識の向上	○週１回の定時退勤の割合を80%以上にする。	・全職員が声をかけ合い、状況把握できるように、見える化した定時退勤簿を設置し、週単位で、見通しをもって勤務計画を立てることができるようにする。中間評価までに、定時退勤簿達成率を75%以上にする。	A	・管理職も率先して定時退勤をしたり、他の職員に呼びかけを行ったりした結果、定時退勤を意識して実行している職員が増加した。週によっては定時退勤達成率が100%の週も複数日あった。	A	・職員室出勤簿横におかれている先生方が週ごとに定時退勤日をボード上のマグネットを動かし予定するシステムは、先生方の意識づけになっていると感じる。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目

重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標 （数値目標）		達成度（評価）	実施結果	評価	意見や提言
○生徒指導	○生活指導、教育相談の充実	○不登校や相談室登校の生徒数を減少させる。 ○特別支援を含めた総合的な生徒指導体制づくりを行うため、3回以上関連する協議会を実施する。	・アンケート等を活用し、定期的に教育相談を実施して生徒理解に努める。 ・生徒会活動の充実を図り、教育活動の中に生徒一人ひとりが自己指導力発揮する場を設定する。 ・生徒指導や特別支援教育の支援体制を整備する。	A	・全校集会や学年集会などで、生活面における注意喚起だけではなく、生徒が頑張っていることへの称賛を加えて指導を行った。 ・教育相談担当、スクールカウンセラー、サポート相談員、学習支援員、養護教諭と諸機関との連携を密にして、きめ細かい個別指導や支援の充実を図ることができた。	A	・不登校生徒も少なくない中、一人ひとりに寄り添う姿勢を大切にされていることは十分に感じられる。教職員だけでなくスクールカウンセラーなどさまざまな支援も出来ていると感じている。また、多様な相談に対応できる体制も取られていると感じる。
○特別支援教育	○特別支援教育の充実	○特別支援教育の視点を取り入れた教室環境に取り組み、アンケートで授業が受けやすい環境であるとした生徒を80%以上にする。	・教科教育充実のために、特別支援学級を全校の時間割に組み込む。 ・特別支援教育に関する全体研修会を開催し、教職員のスキルアップを図る。 ・連絡会や各研修会、特別支援だよりを通して、全職員の共通理解を図る。	A	・定期的な特別支援教育部会の開催による情報共有や校内研修による教職員のスキルアップを行うことができた。 ・関連するアンケートで87.1%の職員がスキルアップできたという回答を得ることができた。	A	・特別支援教育に携わる教職員のスキルアップ意識が浸透していると思われる。毎週配布されている全校の授業時間割に特別支援学級の時間割が組み込まれており、全教職員で特別支援教育に取り組もうとしていることが感じられる。
○環境教育	○「佐賀市学校版環境ISO」認定取得校としての環境教育の推進	○ゴミのない学校の取組を推進する。 ○SDGsを達成するために、ゴミの減量、持ち帰りに積極的に取り組む生徒を80%以上にする。	・生徒集会で「佐賀市学校版環境ISO」認定取得校として環境教育を説明する。 ・SDGsを意識し、各学級でゴミの削減について考え実践する。	A	・生徒会を中心にボランティアによるゴミ拾いやプランターの花植え、クリーンボックスの設置をすることができた。	A	・校内清掃状況、校舎周りのプランターの鉢植えを見て、いつ学校に行っても整っている印象がある。生徒会を中心とした自主的な環境整備はとても良い成果をもたらしていると思う。
○小中連携	○中学校校区内の小学校との連携の推進	○児童・生徒・教職員の相互交流の場や交流活動の内容を充実させ、アンケートで、学校が必要に応じた連携を行っているという回答を80%以上にする。	・小中合同の教務主任会議を行う。 ・「小学校6年生への授業体験」「ふれあい学級見学会」などを行い、小中連携をすすめる。	A	・夏休みに実施した小学生の授業体験やふれあい学級見学会を確実に実施することができた。	A	・以前に比べるとより連携が深まっていると感じられる。管理職だけでなく、教務や生徒指導、教育相談部門等々での連携がなされている。今後、地域の行事にも連携があると、更に地域にも想いが伝わると思う。

●・・・県共通　○・・・学校独自　◎・・・志を高める教育

5　総合評価・ 次年度への展望	・夢や目標に挑戦する心の育成・・・講師を招聘した講演会や行事前の目標を記述する取り組みの成果が現れており、今後も取り組みを続けていきさらなる成長に繋げたい。 ・家庭学習の習慣化・・・定期テスト前に設定した「テスト計画作成の時間」により、計画的な家庭学習の習慣が身についてきている。次年度も生徒・保護者に家庭学習の意義を伝え，家庭学習の質の向上を図っていく。 ・特別支援教育の充実・・・校内における講師を招聘した研修を重ねることにより、スキルアップが図られている。次年度は更に実践を積み上げ、学びやすい学習環境づくりをすすめていきたい。 ・地域行事への参加・・・生徒会を中心に校区内の小学校への支援を行ったり、PTA主催のボランティア活動に多くの生徒が参加するなどの取り組みを行い積極的な参加ができた。今後、地域との連携を更に進めていく。